

2018年 暮らしの瓦版 5月号

『リフォーム相談』承ります

永く住むためには、定期的な住まいのメンテナンスが欠かせません。あなたの大切な住まいの診断（相談）のできるお医者さん（工務店）はありますか？どんな小さなことでもご相談ください。 0120-520-523 担当 兼子

浴室ドアの取替 子供から大人まで安全で使いやすい、 バリエーションが豊富な浴室ドア

現作浴室（タイル貼）入口折れ戸の取替工事です。

< 施主様依頼内容 >

古い浴室の折れ戸がはずれてしまう

< 状況 >

吊り込んでいるプラスチックが劣化の為、割れてなくなっていた。

< 対応 >

カバー工法にて対応 所要時間 2時間

～カバー工法の利点～

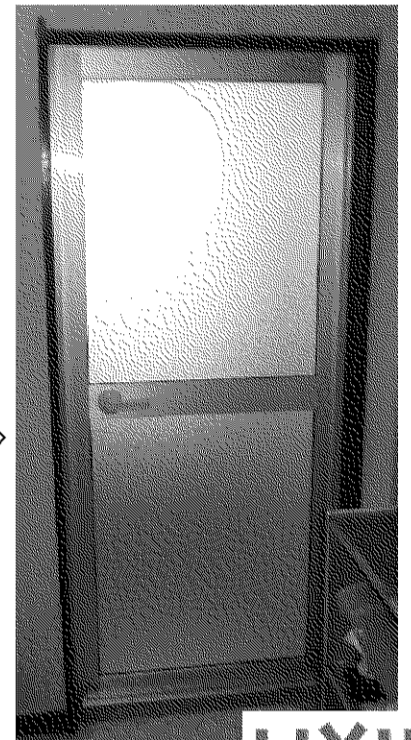
既存の枠の上から、新たに枠とドアを取り付ける為、タイルや防水面を傷めずに施工できます。結果的に安く、短時間で施工でき、その夜にお風呂に入ることができました。

玄関、窓もカバー工法で施工できます

Before



After



LIXIL
Link to Good Living

栃井建設のイベントや行事をご紹介するために、会社及び社長のフェイスブック投稿記事を掲載しています。



渡邊 浩

4月1日 22:20 · 載

今日は、お天気も良く地鎮祭でした。弊社近くの6区画分譲地 SEタウン 最後の1棟です。すべてSE構法「重畳木骨の家」。またひとつ「おうち物語」の始まり。



いいね!

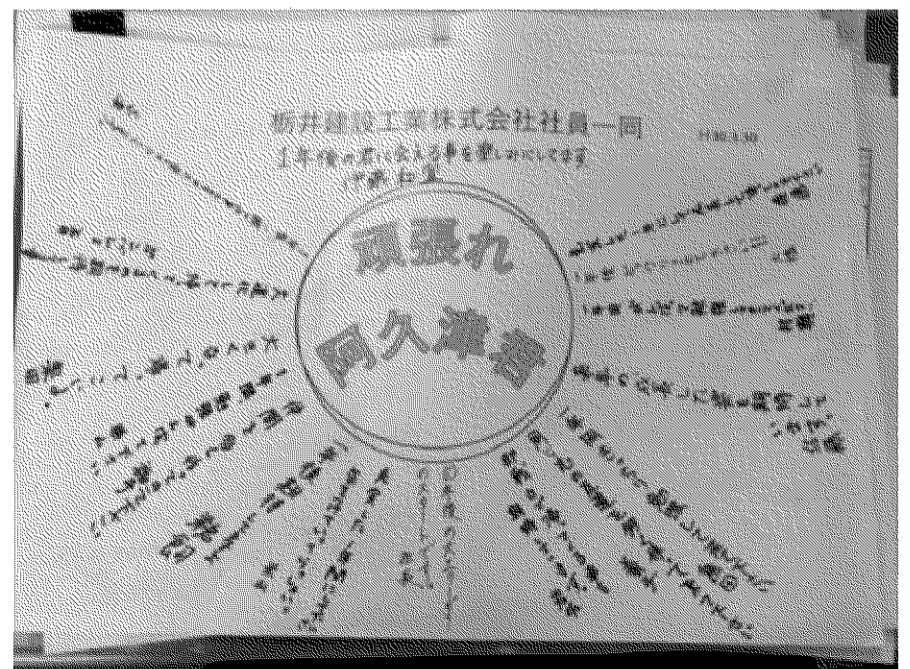
コメントする



渡邊 浩

3月31日 11:35 · 載

弊社は3月26日から新入社員がきています。現場管理部門へ二人、大工さんを目指す子が二人です。その内のひとは地元の工業高校の建築科を卒業した18歳です。彼は弊社がお世話になっているハウスメーカーさんの大工養成学校に入校して1年間学科、技術を勉強してきました。同じ志を持つ全国の仲間達と頑張ってくるように社員一同で激励の寄せ書きをしました。4月3日入校式には私も千葉県まで同行します。



いいね!

コメントする

～入校式に参加した社長のコメント～

今年度は計69名の入校でした。

全国各地の高校を卒業して、大工さんになるという高い志を持った若者たちの姿を見ると、我々経営者も次世代の技術者を育てるということに理解と積極的なバックアップが必要なことを痛感しました。

発行

新築・建替え・リフォーム・増改築のことなら

栃井建設工業株式会社

岐阜市河渡3丁目138番地

☎ 0120-520-523

ISO9001 認証取得



Totii 毎日の暮らしの中で
“耐震”を考えたことはありますか？

地震は必ず発生します。
 住宅が身を守るものではなくて凶器にもなり得る実例を
 いくつも見てきました。

「地震があった日の夜も、家で寝たい」
 「家は倒れてはいけない」

大空間、自由な間取りの実現には、根拠ある家の強さが必要
 です。

我々は、日本の家を100%耐震にするため、住まいの
 ご提案として「耐震構法SE構法」をご提案しています。
 家づくりとは…

家は「器（うつわ）」です

住んでからが本当の家づくりだと私たちは考えていま
 す。

住んでからどんだんのご家族のライフスタイルに合わ
 せて変化させていくものです。

そんな器づくりを我々はお手伝いさせていただいており
 ます。

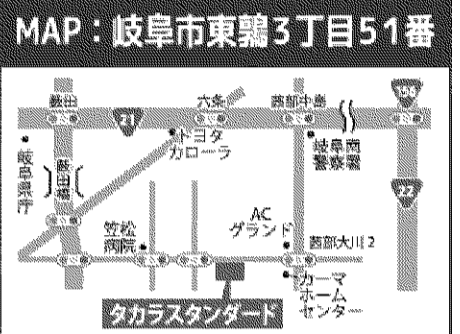
住まいのよろず相談会

タカラスタANDARD岐阜ショールーム

開催日 5月19日(土) **時間** 10:00~16:00

会場 タカラスタANDARD岐阜ショールーム

いい土地がなくて困っている、土地はあるけど、
 どんな家が建つか話を聞きたい、
 まずお家にいくら必要なのか知りたい、などなど
 今悩まれている方ぜひお越しください。
 親身になってご対応させていただきます。



御神輿わっしょい

4月7日(土)

河渡第3班子供会が、
 お父さん、お母さん達
 に助けられながら、色
 とりどりの花神輿を
 元気にかついで練り
 歩きました。



**開運伊勢神宮参拝ツアーに
 行ってきました**

参加者の皆様は、一週間前より規則正しい生活をして頂き、
 男性は上着、ネクタイ、女性はスーツもしくは、肌を露出し
 ない服装、社員は前日夜9時以降、水以外は食さず、礼服に
 て参加しました。当日は大田先生のお話があり、神社につい
 ていろいろ勉強しました。



職場の教養

一般社団法人倫理研究所「職場の教養」より抜粋

4/14 ☆再建への気概
 ～被災地域の声に耳を傾けましょう～

熊本県益城町を中心に、最大震度七を観測した熊本地震から、
 二年が経過しました。現在も復旧・復興が進められています。

益城町に住む八十四歳の佐々木君代さんは、二十一年前に夫
 を亡くし、一人暮らしの中、震災に見舞われました。命は助か
 りましたが、自宅は全壊しました。

佐々木さんは、自宅前の駐車場に、廃材などを使ったテント
 を自力で建てて暮らし始めました。

テント生活を続ける中でも、佐々木さんは再び家を建てる目
 標を持っていました。その言葉通り、震災から一年後、全資金
 を擲って自宅を再建したのです。

「みんな家は建てるなというけど、私は私を全うしたいんで
 す。できる限りやってみる。生きた証。人間立ち上がらなんね」
 と話す佐々木さん。その気概は、復興に立ち向かう一人として、
 周囲に勇気を与えました。

再起への歩幅は一人ひとり違うでしょう。その歩みに寄り添
 うような気持ちで、今できることを考えたいものです。

どんな小さなことでもお気軽にご相談下さい。
 当社は、お客様満足度地域No.1を目指しています。

